

着心地の良い衣服パターン設計 (第8報)ー動作時に伴う衣服圧の変化ー
佐藤眞知子 渡部句子 ○豊田磨以 池田和子
(文化女大)

目的：着心地の良い衣服パターン設計のための基礎資料として、動作時の着衣による衣服圧分布の変動をビデオ撮影と同期させて測定し、衣服圧分布と衣服圧値の変動及び外観映像とを対照させた。

- 方法：①素材はシーチング、ギャバジン、ヨコワンウェイストレッチの3素材。
②実験服は、JIS9ARサイズに対応させた原型的ジャケットで、3素材とも同一パターンで単衣仕立てとした。
③モデルは、JIS9ARサイズに該当する女性1名で、内衣に綿100%の長袖Tシャツを着用した。
④使用機器は、60個のセンサーを用いた既報の衣服圧分布計測システムに、ビデオカメラを同期させて計測した。
⑤計測動作は、静立、両上肢前挙(45°, 90°, 135°), 上挙極限の計5動作を連続して計測した。各姿勢は5秒間ずつ維持した。

結果：前挙動作の移行と衣服圧の値と分布範囲の変動には明らかな対応がみられ、その分布範囲を以下のように絞りこむことが出来た。衣服圧の分布は、衣服パターン上では後ろ身頃及び袖の袖ぐり底線、後ろ身頃の肩甲骨あたり、袖上部に顕著にみられた。シーチングは、高衣服圧を示し分布範囲は集中していた。ギャバジンは、高衣服圧を示しながらも分布範囲は分散していた。ヨコワンウェイストレッチは、低衣服圧であり、分布範囲は集中していた。